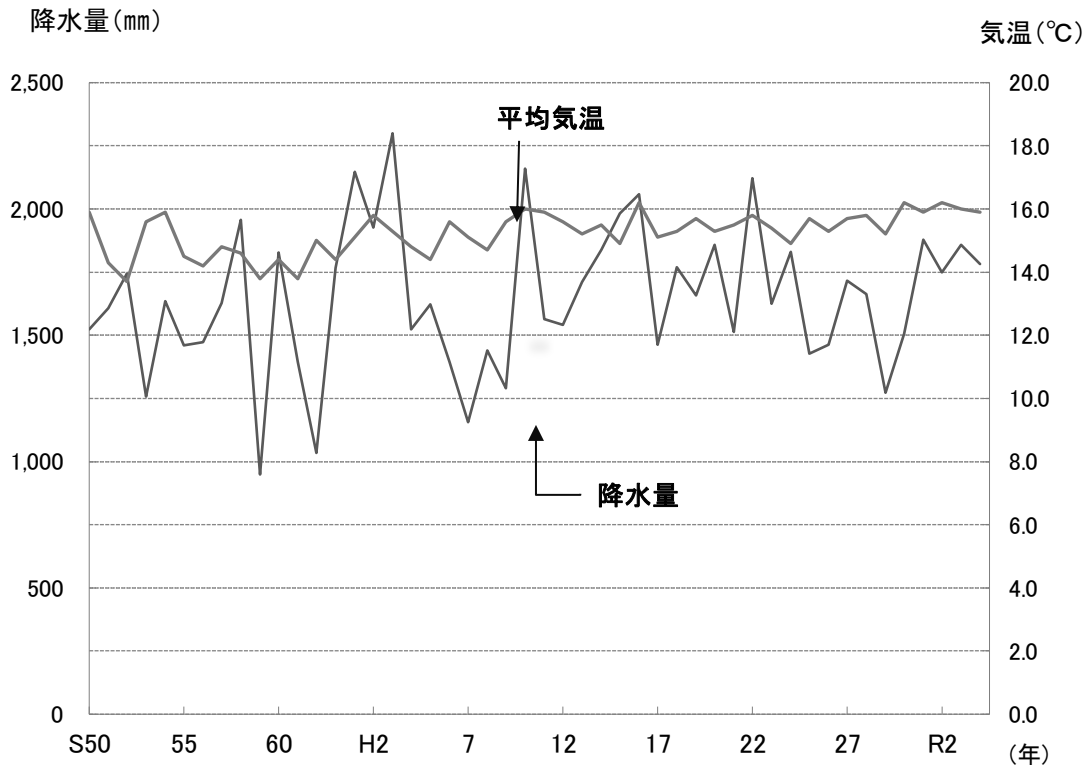


1 総 説

降水量と平均気温の推移(秦野市)



(10 気象の概況より作成)

1 沿 革

秦野市における人類の生活痕跡は、約27,000年前（旧石器時代）まで遡ることができる。しかし現代の秦野市域の生活基盤である秦野盆地の開発は、古墳時代の終末のころ、つまり6～8世紀にかけて進められたもので、その当時の様子的一端は、多数の古墳や住居跡によってうかがうことができる。

波多野庄の成立は平安時代中期に、源氏の家人であった佐伯氏がこの地方を治めるために派遣され、地名から波多野氏を名乗り、その縁で摂関家（近衛家）に寄進したことに始まると思われる。波多野氏は更に、鎌倉時代には執権北条氏の下で有力御家人となり重要な地位を占めるが、一族の中心的人々がそれぞれ相模国から転出したため、南北朝・室町両時代には大きな活躍をするものがいなかった。

小田原に拠った戦国大名北条氏のころには、足軽大将・郡代の大藤氏等がこの地方を支配したが、この支配の関係からいくつかの郷村が、上や下、あるいは南や北などに分かれた。これが江戸時代に村として固定し今日の大字の元になっている。

江戸時代の初め秦野市地域の大部分の村々は、徳川氏の直轄地であったが寛永期と元禄期の二つの時期に足柄上郡部分を除き、そのほとんどが幕臣である旗本たちの領地となった。多くの村には数名の領主の土地があり、複雑な支配を受けていた。後に秦野ばかりでなく神奈川の特産品にもなった葉たばこの栽培は、このころに地歩を固めたものである。

曾屋村の中央に置かれた十日市場は、毎月一と六のつく日に市が開かれ、たばこや農具の取引など周辺の有力な経済活動の中心をなしていた。

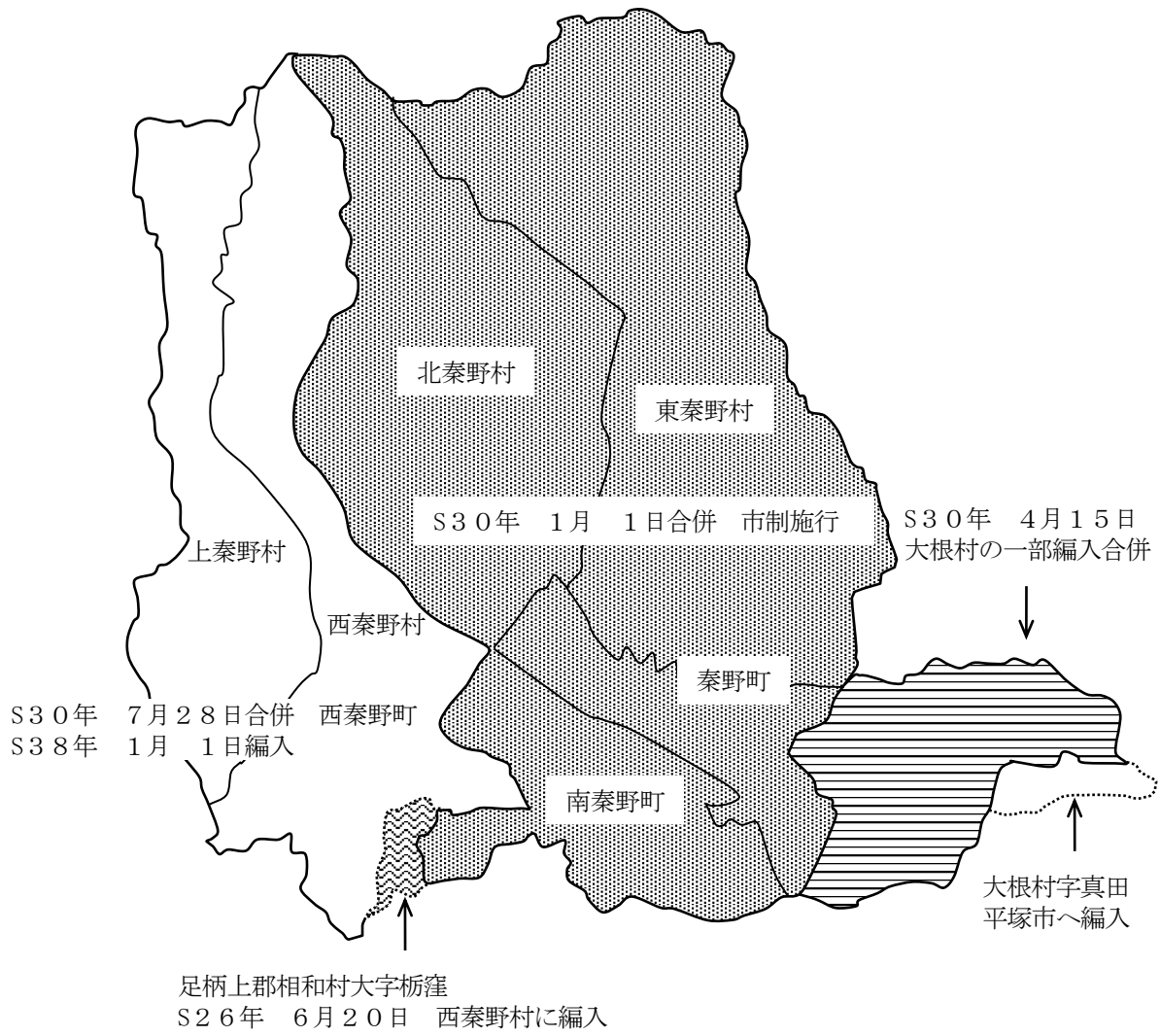
明治に至り、初期は小田原県や足柄県に属したが、その後神奈川県に移るなど行政区画や名称の変更が目まぐるしく行われた。

明治22年4月町村制が施行され、秦野町を初め東秦野村、西秦野村、南秦野村、北秦野村、上秦野村そして大根村が誕生し、昭和30年まで存在した。この間明治23年には我が国初の簡易陶管水道が完成し、同39年には湘南馬車鉄道の開通、大正5年には町営電気事業の営業開始、そして昭和2年の小田急の開通など近代化への歩みは着実に進められていった。

昭和28年自治体の行政能率の向上を目指し町村合併が促進され、秦野町、南秦野町（昭和15年町制施行）、東秦野村、北秦野村が昭和30年1月1日に合併、市制を施行し、次いで4月15日に大根村の大部分が編入した。一方西秦野村と上秦野村も同30年7月28日に合併し西秦野町となり、同38年1月1日秦野市へ編入して現在の市域となった。

昭和31年2月には、商工業の発展と市勢の伸展をねらいとして「秦野市工場設置等奨励に関する条例」を制定、これを契機に工場地域内に企業の進出が相次ぎ、従来の農村型都市から脱皮が図られた。更に国の高度経済成長政策とあいまって、急激な都市化がみられ、特に市制施行当時、35,277人（後に秦野市に編入合併した大根村の一部及び西秦野町当時の人口を加えると51,042人）であった人口は、市制施行67年を経た現在は、約16万人となり「水とみどりに育まれ誰もが輝く暮らしよい都市（まち）」として、県央西部の広域拠点都市としての役割を担いながら、未来に向かって輝き続ける魅力あるまちづくりが進められている。

2 市域の変遷



3 市制施行当時の旧町村の概況

総合政策課調

区 分		秦野町	南秦野町	東秦野村	北秦野村	大根村	西秦野町	
調 査 時 点		—	—	昭和29.9.1	—	昭和30.2.1	昭和37.8.1	
人 口	(人)	17,056	8,173	6,177	3,871	4,574	12,270	
戸 数	(戸)	3,370	1,526	885	615	760	2,481	
面 積	(km ²)	6.53	8.71	29.04	19.6	8.71	31.57	
財 産 (土地等は財政財産)	現 金	(円)	1,027,328	619,423	80,087	462,878	28,271	3,922,546
	有価証券	(円)	463,000	154,000	29,398	—	—	100,000
	山 林	(反)	30,915	—	2,385,506	443,426	0.9	1,623,052
	田 畑	(反)	—	—	150	—	—	901
	宅 地	(坪)	6,321	14,299	—	—	1,154	653,000
	そ の 他	(反)	222,881	—	—	12,472,408	—	—
	建 物	(坪)	477	231	—	—	218.5	487
行 政 財 産	土 地	(坪)	14,521	15,997	9,373	6,173	529	19,277
	建 物	(坪)	3,810	2,170	1,430	1,057	173.31	3,505
負 債	教 育 債	(千円)	1,562	10,600	4,733	—	—	10,324
	そ の 他	(千円)	1,133	2,100	13	3,700	3,000	25,075

昭和29年9月18日付廃置分合並びに市制施行申請書、昭和30年3月3日付区域変更申請書、昭和37年9月3日付秦野市、西秦野町の配置分合について(申請)による

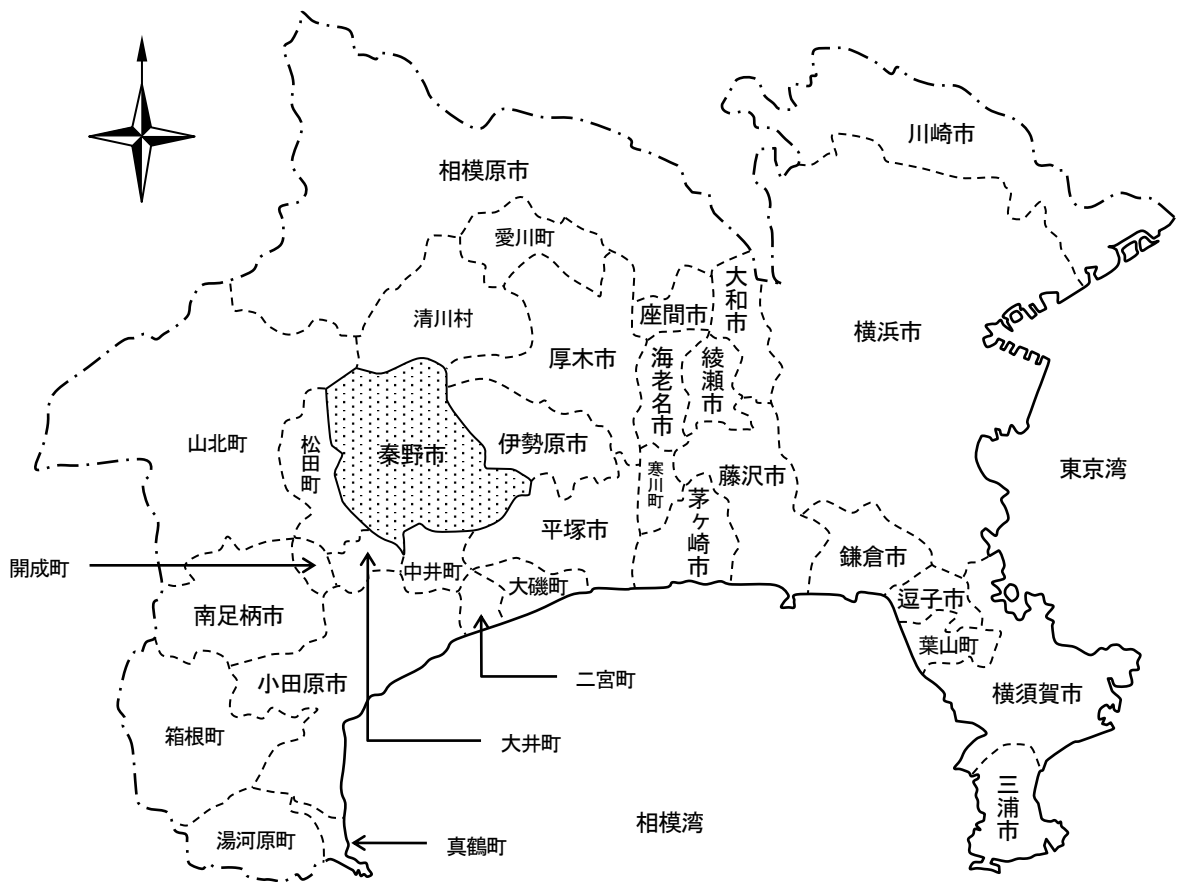
4 位 置

秦野市は、神奈川県央の西部に位置し、東部は伊勢原市、西部は松田町及び大井町、南部は中井町及び平塚市、北部は山北町、清川村及び厚木市に接し、面積103.76平方キロメートル、東西の距離13,590メートル、南北12,800メートルである。市の中心部は、東京から約60キロメートル、横浜から約37キロメートルのところであり、北方には、いわゆる神奈川の屋根丹沢連峰がひかえ、南方には渋沢丘陵と呼ばれる台地が東西に走っている。

市内を流れる河川の多くは、その丹沢連峰の稜線の合間から発しており、中でも塔ノ岳から発する水無川及び大山から発する金目川は、下流においていわゆる扇状地地帯を形成し、これが今日の中心市街地となっている。

市庁舎(桜町一丁目3番2号)は、日本測地系で東経139度13分24秒、北緯35度22分17秒を位置している。

5 地 勢 図



凡 例	
-----	県 界
-----	市 町 村 界

※ 令和5年3月1日現在

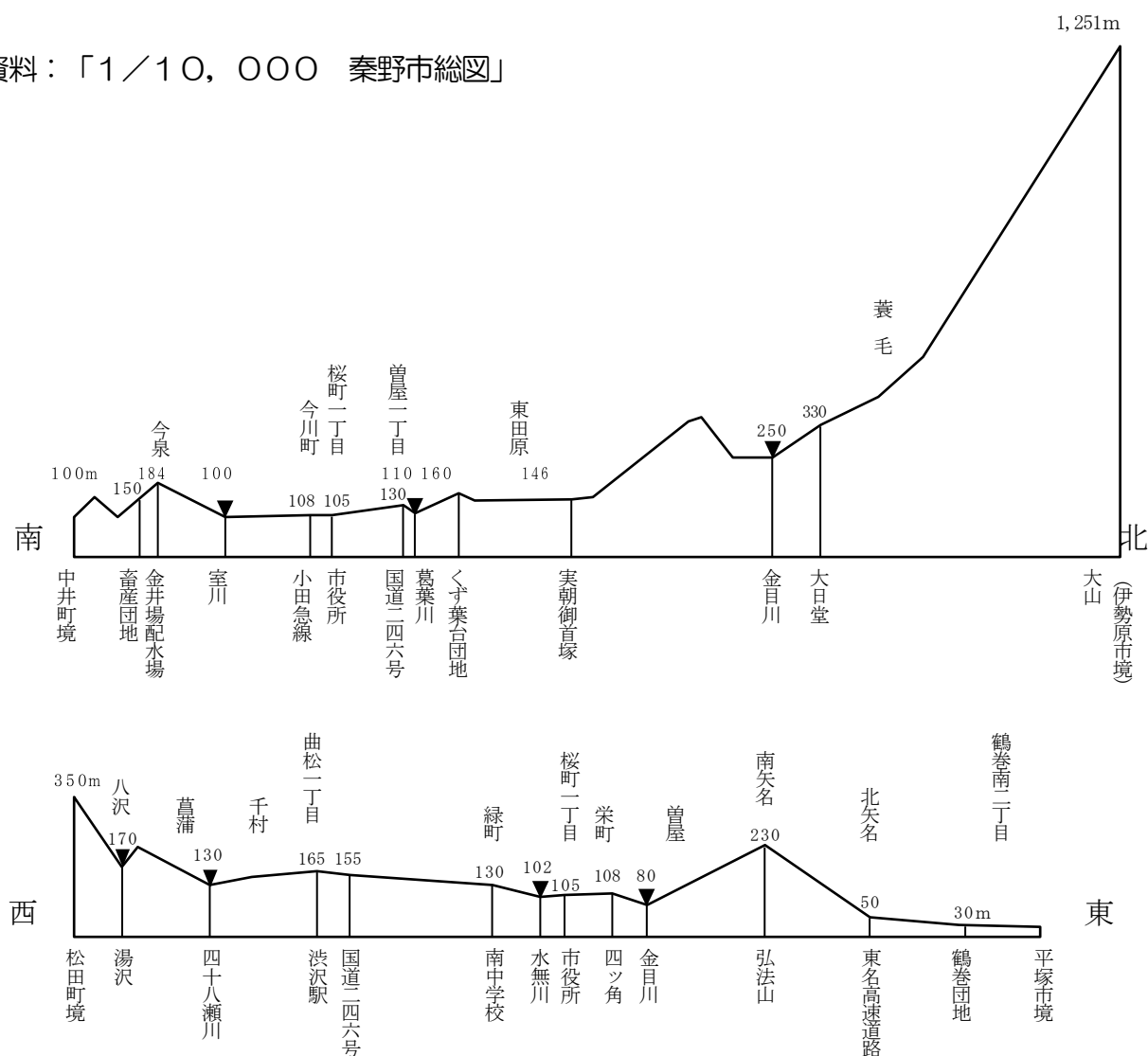
6 地形・地質・地高の概観

秦野盆地は、東・北・西の3方を、第三系丹沢層群のつくる大山・三ノ塔・塔ノ岳・鍋割山等の谷の深い壮年期の山々に囲まれ、南方は、更新世末に隆起したなだらかな洪沢丘陵にさえぎられている。盆地の南縁にあたる室川の流路に沿って東西に伸びる洪沢断層、同じく秦野保健福祉事務所前に秦野断層がある。

秦野盆地の地質は、基盤が丹沢層群をつくる緑色凝灰岩で、その上に砂礫と降下火山灰等が互層をなして堆積している。盆地内の砂礫は、丹沢山地より盆地の中央部を流れる水無川、盆地の西側を流れる四十八瀬川、東側を流れる金目川等によって運搬堆積し、砂礫層となって複合扇状地の地形を形成している。そのため水無川の流水は、扇頂にあたる大倉付近から伏流水となり、扇端の今泉・平沢付近で湧出している。

また、降下火山灰層は、西方に約40万年前から活動している箱根火山や約8万年前から活動している富士山からのものであり、過去に火山灰・軽石・軽石流等を噴出し堆積してできたものである。砂礫と降下火山灰層の互層の堆積物の厚さは、盆地の中央部にあたる中央運動公園付近で約150mと推定されている。

資料：「1/10,000 秦野市総図」



7 主 要 河 川

建設総務課調

河 川 名	法 河 川 長	市 内	
		法 河 川 長	流 域 面 積
金 目 川	19.50 km	9,600 m	64.50 km ²
水 無 川	7.50	7,500	17.69
葛 葉 川	6.22	6,220	15.76
室 川	5.00	5,000	24.42
大 根 川	3.06	1,940	7.10
四 十 八 瀬 川	7.85	7,750	16.50
善 波 川	1.50	1,300	—

資料：「平塚土木事務所管内図」その他

8 湖 沼

湖 名	周 囲	最 深	標 高
震 生 湖	0.947 km	9.80 m	150 m

資料：中田英明・桑原連：陸水学雑誌V01.38 No.3 (1977)

9 山 岳

(国土地理院地形図より)

	山 岳 名	標 高 (m)
市 内 の 主 な 山	塔ノ岳	1,491.0
	鍋割山	1,272.4
	三ノ塔	1,204.7
	大山	1,252.0
	頭高山	303.3
	権現山	243.3
	弘法山	235.0
県 内 の 主 な 山	蛭ヶ岳	1,673.0
	丹沢山	1,567.0
	畦ヶ丸	1,292.3
	檜洞丸	1,601.0
	大室山	1,587.6

10 気象の概況

消防本部情報指令課調

年次月別	平均気圧 (hPa)	気 温 (°C)			平均 湿度 (%)	総降水量 (mm)	風(M/S)		天 気 日 数 (日)			
		平均	最高	最低			最多 風向	平均 風速	晴	曇天	降水	雪
令和3年	995.0	16.0	34.6	-2.7	79.6	1,859.0	WNW	2.1	226	97	42	0
1月	997.7	5.2	16.8	-2.7	69.5	31.5	WNW	1.9	24	4	3	0
2月	995.1	8.0	21.0	-0.9	62.3	64.5	WNW	2.5	24	3	1	0
3月	998.6	11.9	21.5	2.7	78.8	156.5	S	2.0	18	9	4	0
4月	999.4	14.0	23.1	5.5	72.1	138.0	S	2.4	21	6	3	0
5月	991.9	18.8	27.8	9.2	81.3	124.0	S	2.4	15	11	5	0
6月	978.3	21.6	30.2	16.1	86.5	139.5	S	1.9	12	13	5	0
7月	993.0	24.8	32.1	19.0	92.5	458.5	S	1.6	13	11	7	0
8月	992.9	26.4	34.6	18.3	90.5	336.5	S	2.1	16	10	5	0
9月	997.3	22.2	31.9	15.1	87.2	134.5	ENE	1.9	15	11	4	0
10月	1000.4	18.0	29.0	7.9	86.2	84.0	WNW	2.0	17	11	3	0
11月	998.0	13.1	21.4	2.5	76.1	91.0	WNW	2.0	25	4	1	0
12月	997.3	7.9	19.7	-1.5	72.6	100.5	WNW	2.0	26	4	1	0
令和4年	996.1	15.9	35.6	-2.8	80.7	1,782.5	WNW	2.0	174	69	122	0
1月	996.8	4.2	14.4	-2.3	68.1	21.0	WNW	1.6	19	9	3	0
2月	997.7	4.7	15.7	-2.8	64.5	34.5	WNW	2.0	19	5	4	0
3月	996.5	10.6	23.9	0.6	75.8	93.0	S	2.1	14	8	9	0
4月	998.2	14.9	25.9	2.1	84.5	255.0	S	2.2	12	3	15	0
5月	995.0	18.0	28.4	7.4	83.8	194.0	S	1.9	16	1	14	0
6月	992.6	22.2	35.6	14.1	87.8	114.5	S	2.3	10	7	13	0
7月	990.5	26.5	34.8	21.8	88.8	260.0	S	2.2	9	9	13	0
8月	991.6	26.8	35.2	19.1	89.7	263.5	WNW	2.2	11	4	16	0
9月	996.3	24.2	33.0	16.5	88.0	332.5	ENE	2.0	14	4	12	0
10月	1001	17.3	29.4	7.8	81.6	95.5	WNW	2.1	11	11	9	0
11月	1,000.2	14.4	23.8	7.2	82.5	77.0	WNW	1.7	17	5	8	0
12月	996.3	7.4	16.6	0.0	72.7	42.0	WNW	2.0	22	3	6	0

(注) 観測地点：秦野市消防本部 秦野市曾屋757